

教員免許状更新講習

—— 八戸学院大学における実施状況 ——

小 林 喜 輝

1. はじめに

2009（平成 21）年 4 月 1 日から教員免許更新新制（以下更新制）が導入され、免許状更新に必要な教員免許状更新講習（以下更新講習）が始まってから今年で 5 年目を迎えた。八戸学院大学（当時八戸大学）では八戸学院短期大学（当時八戸短期大学）と協力し、次の 3 点の共通認識のもと初年度から更新講習を実施した。

- ・更新講習は、教職課程認定大学として長い歴史を持ち、多数の教員を輩出している本学の社会的使命であると同時に、認定大学としての責任でもある
- ・地域の幼、小、中、高、特別支援学校各教員の更新講習地元開設に対する要望に応えるとともに、開かれた大学として地域に貢献する
- ・県及び市町村の教育委員会や学校等との連携を深め、地域に根ざした高等教育機関として質の高い教育を担い、地域教育の充実・発展に資する

青森県南地域の教員を主な対象として実施した更新講習も着実に地域に定着し、教員からも更新講習開設大学として評価を得ている。ここに、更新講習と八戸学院大学の実施状況についてその概要をまとめてみた。

2. 更新制導入までの経緯

2000（平成 12）年 12 月、教育改革国民会議は「教育を変える 17 の提案」の最終報告をまとめた。その中の「新しい時代に新しい学校づくりを」で、「免許更新制の可能性を検討する」と提言した。この提言を受け、2001（平成 13）年 1 月、文部科学省は「21 世紀教育新生プラン 学校、家庭、地域の新生 —— 学校が良くなる、教育が変わる ——」を策定した。この教育新生プランは今後の教育改革の具体的な主要施策や課題等を明らかにしたものであるが、その中で主要施策の 1 つとして「免許更新制の可能性の検討」を掲げた。2002（平成 14）年 2 月、中央教育審議会の答申「今後の教員免許制度の在り方について」では、更新制の可能性について、（1）教員の適格性確保のための制度としての可能性、（2）教員の専門性を向上させる制度として可能性という 2 つの視点から検討を行った。その結果、「我が国全体の資格制度や公務員制度との比較において、教員にのみ更新時に適格性を判断したり、免許状取得後に新たな知識技能を修得させるための研修を要件として課すという更新制を導入することは、なお慎重にならざるを得ない」という結論を出した。しかし、その後、2004（平成 16）年 10 月、時の文部科学大臣が再び更新制を中央教育審議会に諮問した。そして、2006（平成 18）年 7 月、中央教育審議会は「今後の教員養成・免許制度の在り方について」答申で、「その時々で求められる教員として必要な資質能力が保持される

よう、定期的に必要な刷新（リニューアル）を図るための制度」として、導入することが適当であると結論づけた。この答申は、平成 14 年の答申で検討した更新制とは基本的性格が異なり、「いわゆる不適格教員の排除を直接の目的とするのではなく、教員が、社会構造の急激な変化や、学校や教員に対する期待等に対応して、今後も専門職としての教員であり続けるために、最新の知識・技能を身に付け、更新後の 10 年間を保証された状態で、自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊厳と信頼を得ていくという前向きな制度である」ことを明確にした。この答申を受け、2007（平成 19）年 6 月、「教育職員免許法」が改正され、更新制導入が正式に決定した。

3. 更新制の概要

2007（平成 19）6 月、「教育職員免許法」が改正され、平成 21 年以降に授与された教員免許状に 10 年の有効期間が付されることになった。現職教員にも更新制が適用され、満 35 歳、45 歳、55 歳になる直近の 2 年間で 30 時間以上の更新講習の受講・修了が義務付けられた。もし修了しない場合は免許状が失効となる。

更新制は、「免許状に有効期限を付し、免許状の取得後も、その時々で求められる教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に必要な刷新（リニューアル）を図るための制度」として導入されたもので、更新制の目的を簡潔に言うと「その時々で教員として必要な最新の知識技能を身につけること」である。

講習の費用負担については、「受講料及び受講に係る交通費等経費については、教員免許が個人の資格であることをかんがみれば、本人負担を原則とするべきである」とされており、ほとんどの都道府県で本人負担となっている。講習金額は開設者によって異なるが、30 時間で 3 万円以上である。ちなみに、八戸学院大学では、必修領域 1 万 3 千円、選択領域 1 講座 6 千円で

ある。

4. 更新講習の講義内容

更新講習の内容は、すべての教員に共通する事項を扱う必修領域（12 時間以上）と学校種・教育種などに応じた内容を扱う選択領域（18 時間以上）の 2 つに分けられる。

必修領域で扱う内容は、「教育の最新事情に関する事項——教職についての省察並びに子どもの変化、教育政策の動向及び学校の内外における連携協力についての理解に関する事項」である。まず、「教職についての省察」では、① 学校を巡る近年の状況の変化 ② 教員としての子ども観、教育観について省察、「子どもの変化についての理解」では、① 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む）② 子どもの生活の変化を踏まえた課題、「教育政策の動向についての理解」では、① 学習指導要領の改訂の動向等②法令改正及び国の審議会の状況等、そして、「学校の内外における連携協力についての理解」では、① 様々な問題に対する組織的対応の必要性 ② 学校における危機管理上の課題を含むものとなっている。

選択領域で扱う内容は、「教科指導、生徒指導その他教育内容の充実に関する事項」で、各教科の指導法やその背景となる専門的内容、生徒指導等、幼児、児童、生徒に対する指導力に



係る各論的な内容を中心に扱うことになっている。

5. 八戸学院大学における実施状況

更新講習は八戸学院大学と八戸学院短期大学が協力して実施している。八戸学院大学にはビジネス学部と人間健康学部があり、それぞれに教職課程を設置している。八戸学院短期大学には幼児保育学科、ライフデザイン学科、看護学科がある。

必修領域の講習（以下必修講習）は、八戸学院大学の教職課程担当教員と八戸学院短期大学の幼児保育学科教員が担当している。選択領域の講習（以下選択講習）は、八戸学院大学、八戸学院短期大学の学部、学科の特徴を踏まえ、教員の専門性と受講者のニーズを勘案し、開講できる範囲内で実施している。

（1）必修講習（12 時間以上）

必修講習は1日6時間を2日間連続して受講し、修了認定試験60点以上で修了認定

となる。

更新講習が始まった平成21年度は、受講対象教員への周知期間が十分でなかったこともあり、受講者は夏季・冬季合わせて160人に留まった。その後次第に地域に認知され、現在では青森県南地域を中心に約250人の教員が受講している。特に冬季講習では、冬季に更新講習を開設している大学が少ないためか、北海道、関東、関西など遠方からの受講者がいるのが特徴的である。

なお、必修講習は6～7人の教員が、文部科



表1 夏季必修講習（8月上旬）の年度別受講者数と校種別人数

年度	受講者数	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他
21年度	135人	7	51	32	36	5	4
22年度	172人	14	69	44	32	8	5
23年度	189人	18	75	33	50	10	3
24年度	197人	17	82	44	37	7	10

表2 冬季必修講習（12月下旬）の年度別受講者数と校種別人数

年度	受講者数	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他
21年度	25人	2	8	6	9	0	0
22年度	48人	2	16	11	19	0	0
23年度	57人	6	17	10	22	0	2
24年度	46人	2	14	7	21	2	0

学省が取り扱うよう示した4項目の内容を分担して担当している。

夏季・冬季必修講習の年度別受講者数と校種別人数は表1、表2のとおりである。

(2) 選択講習（18時間以上）

選択講習は1講座6時間で、3講座以上の受講が必要である。1日1講座6時間受講し、修了認定試験60点以上で修了認定となる。八戸学院大学には教育学部が設置されていないため、教科指導、生徒指導に関する講座の開設にはおのずと限界がある。そのため、「教育内容の充実に関する事項」を中心に、各学校種に共通する内容を主に扱っている。



選択講習は、講座の内容と教員の専門性を考慮し、ほとんどの講座を複数の教員で担当している。ちなみに、平成24年度は、1人で担当している講座が2, 2人で担当している講座が3, 3人で担当している講座が2, 5人で担当している講座が1であった。

また、選択講習は、講義だけではなく、教育方法の演習や技術のスキルアップを図る内容も含まれており、各講座の指導の内容や形態に応じて受講者に定員を設けている。そのため、講座によっては早々と定員が充足し、希望する講座を受講できない場合もあるが、できるだけ受講者の希望に添うように、予め計画段階から同一講座を2コマ設定したり、1講座を2教室に分けて同時展開で実施するなど工夫を凝らしながら対処している。

なお、平成25年度から、これまで開設していた講座「レクリエーション体験学習と身体表現」については、受講者の要望に応え、講義や演習・実技の内容をより充実させて、それぞれ「レクリエーション体験学習」と「現代的なリズムのダンスと創作ダンス」の単独講座として開設することにした。さらに、新規講座として、「遊びを通した幼児・児童の体力づくり」と「栄養と健康」の2講座を開設した。

選択講習については、より多くの講座開設を

表3 選択講習の各講座の年度別受講者数（夏季・冬季の計）

講座名	21年度	22年度	23年度	24年度
地域資源の活用とフィールド教育への対応	59	79	61	34
どうしたらいいのか？ 小学校英語教育	18	45	50	48
教育現場におけるICT活用	67	81	104	160
健康科学	61	78	191	163
体力・運動能力の調査の活用法と「体づくり運動」の展開	13	51	75	50
カウンセリングの演習	60	66	—	—
レクリエーション体験学習と身体表現	42	83	68	70
音楽表現にかかわる実践的指導	20	21	27	50
音声表現とコミュニケーション	63	98	110	139

望む声が強く、今度とも選択講習の充実に向けて取り組んでいきたいと考えている。

現在、選択講習の受講者数は夏季・冬季合わせて延べ約 700 人程である。

選択講習の各講座の年度別受講者数（夏季・冬季の計）は表 3 のとおりである。

6. おわりに

文部科学省の、平成 22 年度免許状更新講習事後評価結果（確定値）によると、評価項目① 講習の内容・方法についての総合的な評価② 講習を受講した受講者の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価③ 講習の運営（受講者数、会場、連絡等）についての評価という 3 項目の評価平均値は、必修領域で 92%、選択領域で 94.4% の受講者が「よい」「だいたいよい」と回答している。

また、更新講習修了後に行っている八戸学院大学の受講者アンケート調査を見ても、「受講前は気が重かったが内容は初めて知ることが多く大変興味深かった」、「忘れかけていたもの、あらたに知ることができたものがたくさんあり、勉強になった」など肯定的な感想がその多くを占めている。これらのことから、更新講習については受講者にもそれなりの評価がなされていると考えてよいだろう。

さて、平成 24 年 8 月、中央教育審議会は、「教職生活全体を通じた教員の資質能力の総合的な

向上対策について」で、「教員免許更新制については、10 年経験者研修の法律上の実施義務の在り方との関連を含め、詳細な制度設計の際にさらに検討を行うことが必要である」と答申した。今後、「更新講習と 10 年経験者研修との関係整理」を初めとして、「自発的かつ不断に専門性を高めることを支援する新たな制度への移行も視野に入れて検討する」ことになる。但し、政権が代わり、教育政策も見直しが行われていることから、更新制の廃止は考えられないものの、先行き不透明な感否めない。いずれにせよ、これまでの更新制の実施状況から明らかになったさまざまな課題を検討し、一部制度の見直し等を通して、より実効ある形での更新制が望まれる。

参考資料

- 中央教育審議会 「今後の教員免許制度の在り方について」2002 年 2 月
- 中央教育審議会 「今後の教員養成・免許制度の在り方について」2006 年 7 月
- 中央教育審議会 「教員免許更新制の運用について 報告」2007 年 12 月
- 文部科学省「解説 教員免許更新制のしくみ」2008 年 4 月
- 中央教育審議会 「教職生活全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上対策について」2012 年 8 月

Teacher's license renewal training
—— **The implementation status in Hachinohe Gakuin University** ——

Yoshiteru KOBAYASHI

Abstract

Teaching license renewal system starts from April 2009, celebrated its fifth year. Hachinohe Gakuin University in cooperation with the Academy of Hachinohe Gakuin Junior College, we have carried out license renewal courses from the first year, I tried to summarize the summary.

Training compulsory area, teaches teachers about 6-7 people to share the contents of the four items. Notice for students to target teachers was insufficient in 2009 for the first time, the number of students, 160 remained in the human Te summer and winter Align. But then, I believe 220 people, 246 people, 243 personality, and has covered the course subject teachers in Aomori prefecture south region now.

The training of the selected area, I have offered in consideration of the needs of students and expertise of teachers and features of the faculties and departments. The offered about nine course every year, number of participants is about 700 people together summer and winter.